

# 南相馬の授業スタイル

(ワンペーパー版)

南相馬市学校教育指導委員会

南相馬市学校教育指導委員会では、小・中学校すべての学年や教科で共通した授業スタイルの実践による学力向上策に取り組んできました。

各小・中学校において共通の授業スタイルが定着しつつあるところですが、本市で目指す思考・発信型の授業イメージを、先生方とより一層共有する必要がありと考え、授業スタイルのワンペーパー版を作成しました。先生方には、以下の4つのポイントをふまえた「学んだことをつかう授業」、及び先生のファシリテーション（つなぎ役となること）の向上による「子どもが主役の授業」をさらに推進していただき、子どもたちの自ら学ぶ力の育成、基礎学力の定着と活用力（思考力・判断力・表現力）の向上に取り組んでいきましょう。

## 1 4つのポイントをふまえた「学んだことをつかう授業」展開例

### 4つのポイント

### 先生ファシリテーション例

1 課題提示	<p>【約5分】…探究心につなぐ課題提示</p> <p>○学ぶ必要感の高い学習課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が「？」や「〇〇したい！」と感じる提示 →考えのズレを引き出す問いかけ、提示</li> <li>・適度な予想、見通しを持たせる課題・めあての設定</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活の例示</li> <li>○実物の提示、ICT活用</li> <li>○既習事項の活用 「できる、できる、あれっ？」</li> <li>○反転学習の導入</li> </ul>
2 学び合い	<p>【約20～25分】…互いの考えをつなぐ協働的な学び合い</p> <p>○考えを広げたり・深めたりする学び合い活動の設定</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>展開例</p> <p>自力解決 </p> <p>↓</p> <p>ペア学習、グループ学習 </p> <p>↓</p> <p>全体での発表 </p> </div> <p>既習の学習事項の活用</p> <p>双方向の対話 ペア…じっくり話し合わせたい 短時間での意見交換 話しやすくなる 等</p> <p>グループ…多様な意見に触れさせたい 等</p> <p>なぜペア・グループにするのか形態の必要性を考慮することが大切 「わからない」を恥ずかしがらずに言い合える関係性・雰囲気大切</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○開いた発問・ゆさぶり</li> <li>○考えの見取り、コーチング</li> <li>○学び合いの習慣化</li> <li>○協働的・共感的な学級づくり</li> </ul>
3 まとめ	<p>【約5分】…本時の学びにつなぐ・共有するまとめ</p> <p>○学習活動と教科の見方・考え方をつなげるまとめの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体発表の意見や考えを使って端的にまとめる。</li> <li>・わかった！できた！の実感を引き出す。</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>○意図的な指名</li> <li>○板書を使った振り返り</li> <li>○本時のねらいに合わせたまとめ</li> <li>○わかったこと・できたことを学級全体で共有</li> </ul>
4 振り返り	<p>【約10～15分】…深い学びにつなぐ振り返り</p> <p>○「学んだことをつかう」振り返りの学習の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・深い学び、学習の定着</li> </ul> <p>○家庭学習につなげて定着度UP！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・反転学習など授業とのつながり</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>○個別最適化された適用問題</li> <li>○ドリルアプリの活用</li> <li>○考えを深めさせる発問（書く振り返り）</li> <li>○T・T、習熟度別指導</li> </ul>

## 2 先生ファシリテーション力の向上

「子どもが主役の授業」の充実には、  
先生ファシリテーション（つなぎ役となること）が重要です。

※ ファシリテーションとは、「促進する」を語源とし、「受け止める・つなぐ・引き出す・整理する・まとめる・分かち合う」等、先生がつなぎ役となって子どもたちの思考や学びを促すことを意味します。

先生ファシリテーション例を参考に、先生はつなぎ役に徹し、子どもたちの思考力・判断力・表現力を引き出す「子どもが主役の授業」を実践しましょう。



## 単元の構成を考える！

授業は一連の流れが大事！

①まずは、**単元の構成**を考えよう。  
(本単元で、子どもたちに身につけさせる**資質・能力の確認**)  
(児童・生徒の実態からどのように学ばせていけばいいか考えよう・児童・生徒観、指導観)

②単元の**評価規準**を決めよう。  
(1時間ごとの評価を決めます。知識・技能、思考・判断・表現、主体的学習に取り組む態度)

ポイント①  
単元の**資質・能力**を明確にすることで**単元が終わったときの子どもたちの姿**(何を学ばせたのか)が見えるよ！

## 授業では！

めあては青枠で！学習内容の確認を



学び合いで一つの課題を解いていく。一人一人が自分の想いや考えを持ち寄り、話し合いの活性化を！この学びが深い学びを生む！

まとめは赤枠で！何を学んだか子どもの言葉から

ポイント②  
評価規準を決めることで本時の**ねらいがはっきり**するよ。本時の流れを決める上で**大切なキーワード**になるよ！

ポイント③  
本時のねらいに向けて、学び合いの中で、自分の考えを持たせた方が**良いのか**、ペア又はグループで話し合わせた方が**良いのか**を考えることで、子どもたちはより効果的に学ぶことができます。**意図的な戦略**を考えよう！

## 振り返りでは！

子どもたちが今の時代を生き抜くための様々な視点で考える「**深い学び**」にするため。また、本市の課題である「**学習の定着**」を図るためにも「**振り返り**」の時間はとても大切です。

## 南相馬市の先生方の授業等より「振り返り」の取り組みの実例

**解く振り返り(まとめ発展型)**

Aさんのまとめ  
おうぎ形の面積の求め方がわかりました。

A先生の振り返り発問  
それじゃ、こんな形の面積はどうやって求める？

**書く振り返り(自分振り返り型)**

Cさんのまとめ  
このお話から、「互いに理解する」ことの大切さがわかりました。

C先生の振り返り発問  
「互いに理解する」ことで今までの自分の生活の中でどんなよいことがありましたか？ノートに書いてみよう。

**解く振り返り(習熟度別型)**

Bさんのまとめ  
「分数のかけ算の計算のしかた」がわかりました。

B先生の振り返り発問  
ホップ・ステップ・ジャンプの3つの問題を用意しました。自分で進めるところまでチャレンジしよう！

**話す振り返り(広がり型)**

Dさんのまとめ  
説明文は図や表があると筆者の考えがよくわかるなあ。

D先生の振り返り発問  
じゃあ次の図や表だったら、どんな説明ができる？グループで意見を出してみよう！

### 解く振り返りのポイント

- 習熟度に応じた課題を準備すること。
- 定着＝反復。家庭学習や次の学びにつなげること。

### 書く・話す振り返りのポイント

- 子どもたちの「まとめ」から、先生の振り返り発問へ
- 子どもたちに「問い直す」振り返り発問の質を高める。

子どもたちの学ぶ意欲の「**ロケット2段目、着火!**」を促す、魅力的な「**適用問題**」や「**発問**」が鍵です。

## 「南相馬の授業スタイル・授業改善プラン」&「R4~R7公開モデル授業アーカイブ」

一番の研修は、「よい授業」を観ること。先進地視察研修、校内授業研究会、互見授業など、たくさんの授業を観て、授業力に磨きをかけていきましょう。経年のプランやモデル授業アーカイブは、校内研修や個人研究などでご活用ください。

★ 経年の『授業スタイル』・『授業改善プラン』はこちら



★ 令和4~7年度『公開モデル授業アーカイブ』はこちら

